

- **光デバイス技術センター発足とシンポジウム・施設公開の実施**

- 平成16年1月28日

独立行政法人通信総合研究所(以下、CRL、理事長:飯田尚志)では、新しい、開かれた研究施設として光デバイス技術センターを発足させ、2月6日に施設紹介を兼ねたシンポジウムおよび見学会を開催します。本センターには、次世代、次々世代の情報通信システム実現の鍵となる新しい光デバイス研究開発を広く産学官が連携して遂行するための拠点としての役割が期待されています。

<背景>

急速に進むIT化社会への流れを支えるには、情報通信システム技術のたゆみない発展が不可欠です。そして、新しいより高度なシステムの実現には、最先端の光デバイス技術研究開発を強力に推進することが極めて重要です。一方、社会、とりわけ企業活動における競争原理の浸透と共に産業界が支える研究開発においても、テーマの選択や投資の集中が進み、中・長期的視野に立ったリスクの高い先行的デバイス研究への投資は滞りがちとなって、技術開発力の将来に対する不安感の高まりも指摘されています。このような中で、中立性・公共性の高い情報通信技術研究機関であるCRLが、新しく発足した光デバイス研究拠点を広く社会に公開し、他と連携して研究開発を進める体制を整えることは、産学官の連携の強化に寄与するものと考えています。

<センターの概要>

光デバイス技術センターには、クリーンルーム(プロセス室)や測定室が設置され、中には、電子線や光による極微パターン形成、分子線やプラズマによる高純度成膜、イオン線などによる極微細加工、電極形成や光ファイバとの接続、あるいは電子顕微鏡ほかによる微細形状観測や元素分析、その他各種のプロセスや測定のための設備・装置群が配備されていて、半導体や誘電体材料を用いた、様々な光デバイスの試作研究開発に活用することができます。また、それら設備・装置が常に適切な状態で使用できるように維持管理し、標準的な使用条件を利用者に提供できる態勢を整えています。防災のための安全対策や、廃棄物、あるいは排気、排水、騒音などに係る環境保全にも最大限に配慮しています。利用者が、光デバイスの試作研究開発に専念することができる環境を提供します。

<センターの特色>

CRLは、情報通信技術に関連する全ての領域に渡って研究開発を進めていますので、その中で行われているデバイス研究は、情報通信システムへの応用に重心が置かれている点に、特色があります。

<センターの運営と利用>

当センターは、基礎先端部門に付属した施設として、部門内の関連研究グループが協力して、運営・維持管理が行われていますが、産学官連携研究を推進する観点から、可能な限り開かれた研究施設として運用する計画であり、施設の利用については、当面、関連研究グループとの共同研究体制の下で実施する予定です。

<シンポジウムおよび施設公開>

2月6日にCRL内において、施設紹介のためのシンポジウムが実施されます。東京工業大学・小山二三夫教授の招待講演、施設紹介およびCRL内外の3名の利用者からセンターを活用した研究開発の事例および成果が報告され、その後、施設の実地見学が予定されています。

<連絡先>

上席研究員 井筒 雅之
Tel:042-327-7932
Fax:042-327-6106



センター外観



プロセス室